

北朝鮮有事の円相場シミュレーション

ティラーソン米 국무長官は、7日のシリア攻撃について、核実験やミサイルの発射実験を繰り返す北朝鮮への警告であった事を認め、「国際的な義務への違反を続け、地域の安全を脅かす全ての国家は報復措置に直面するとのメッセージだ」と述べた。その上で米国防総省は、原子力空母カール・ビンソンと誘導ミサイル巡洋艦1隻、駆逐艦2隻の艦隊を朝鮮半島に派遣した。

こうした米国の動きに対して、北朝鮮は「現在の重大な状況」を理由に、「核兵器を中心とする自衛および先制攻撃能力」を持つことは正当化できるとして「威圧的で凶暴な行為によってもたらされるであろう壊滅的結末について、米国に全責任を負わせる」とする声明を発表した。

また、先の米中首脳会談で北朝鮮問題への対応を迫られた中国は、関税当局が北朝鮮からの石炭貨物(北朝鮮の主要輸出品)を返還するよう国内商社に命じたとされる。実質的な後ろ盾であった中国からも制裁強化が打ち出された格好であり、追い詰められた北朝鮮が次にどのような行動に出るのか、警戒が広がっている。

仮に、朝鮮半島で有事となった場合の円相場の反応をめぐっては、至近距離での紛争であり、場合によっては日本に直接被害が及ぶ可能性もあるため下落する(円安要因になる)との見方と、リスク回避の動きにより上昇する(円高要因になる)という2通りの見方ができる。準当事国である日本の円を手放す動きが強まるという教科書的な見方には頷ける部分もあるが、円の特殊性に鑑みれば、「有事の円買い」で反応する可能性が高いように思われる。①投機筋のポジションが依然として円売りに傾いている点、②大きな被害が出た東日本大震災に対する反応が円高であった点、③株式市場の格言に「遠くの戦争は買い、近くの戦争は売り」というものがあり、これに沿えば日本株が下落する公算が大きい点、などがその理由だ。

11日以降、月末にかけて相次ぐ記念日に合わせて北朝鮮が6回目の核実験やさらなるミサイル発射に踏み切る可能性があるとの見方は根強い。本稿執筆時点(11日17:45)では、北朝鮮情勢の深刻化は伝えるニュースは聞こえてこないが、当面は用心するに越した事はないだろう。

| 4月 | 北朝鮮をめぐる動きと今後のスケジュール |
|-----|---|
| 5日 | 北朝鮮が日本海に向けてミサイル発射実験 安倍首相「重大な挑発行為で断じて容認できない」 |
| 7日 | 首脳会談で米大統領が中国主席に北朝鮮問題の解決を迫る 米軍がシリアに向けてミサイル攻撃 |
| 9日 | 米 국무長官「シリア攻撃は北朝鮮への警告」 米が原子力空母を朝鮮半島に派遣 |
| 10日 | 北朝鮮「壊滅的結末について、米国に全責任を負わせる」 中国政府、米空母派遣について「自制を保つべき」 |
| 11日 | 北朝鮮最高人民会議(国会に相当) キム・ジョンウン朝鮮労働党委員長就任5周年 中国が北朝鮮の石炭返還を指示 |
| 15日 | キム・イルソン主席生誕105周年 |
| 25日 | 北朝鮮人民軍創設85周年 |

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com